

事業報告

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

I 会社の現況に関する事項

1 事業の経過及びその成果

当期における国内経済をみると、前半は、公共投資による押し上げや個人消費などの持ち直しの動きなどにより緩やかな回復の動きとなりましたが、後半は消費税増税による個人消費のかげりや新型コロナウイルスによる影響で力強さを欠く展開となりました。

一方、県内経済は、消費税増税後は個人消費は足踏みの状態となり、住宅着工なども弱い動きとなりましたが、生産活動が持ち直したほか雇用情勢も引き続き有効求人倍率が高い状況が続くなど、全体的には緩やかな回復の動きとなりました。

当社においては、2019年3月にリアス線として順調なスタートを切り、4月～9月も運賃収入では計画を大きく上回って推移していましたが、10月の令和元年東日本台風（台風第19号）により、土砂流入や路盤流出など大きな被害を受け、一時全区間の約7割が運休となりました。しかし、国や県、市町村など関係機関や全国の皆様からの御支援等をいただきながら順次運行を再開し、2020年3月20日におよそ5ヶ月振りに全線運行再開を果たすことができました。

当期は2018年度に引き続き、「いわての学び希望基金」を活用し、岩手県による通学定期の半額補助を実施したほか、「三陸防災復興プロジェクト2019」での企画列車（プレミアムランチ列車、三陸縦断夜行列車等）の運行、ラグビーワールドカップ開催による臨時列車の増発、冬季における「プレミアムこたつ列車」、「洋風こたつ列車」などの観光列車の運行、さらには企業ヘッドマーク及び車両ラッピングなど企業等との連携により、利用者の増加と収入の確保に努めてきました。

関連事業として旅行業では、震災学習列車、オリジナル震災復興研修等により、引き続き災害学習への需要対応を図りました。

また、物産事業においては、リアス線開業に合わせて直営店「さんてつや」をオープンし、当社オリジナルグッズをはじめ、沿線の企業とコラボした商品の販売を行いました。

この結果、輸送人員は、リアス線の開業に伴い釜石～宮古間が新たに加わったことやリアス線開通効果により多くの観光客が乗車したことなどで前年度比164.0%の908,645人となりました。

鉄道事業収入は、リアス線の開業による地元利用・観光客の利用や駅共同使用料、ラッピング等の広告料収入の増加により前年度比189.6%の535,752千円、関連事業収入は、旅行業において前年度比96.2%となったものの、物産事業における直営店「さんてつや」の新設や夏冬ギフトの売上が増加したことにより全体で79,084千円となりました。

経常費用については、リアス線開業による人件費や、修繕費、燃料他動力費、駅共同使用料、乗車券販売手数料の増加などにより、前年度比151.1%の1,088,462千円となりました。

その結果、経常利益は▲403,481千円となり、特別利益等を加えた当期純利益は151,229千円と前年度と比べて165,684千円の増益、計画と比べて146,178千円の増益となりました。

なお、当社では、安全・安心な輸送を確保するため、老朽化した通信ケーブルの更新、AT S地上子の更新新設、橋梁の改修や変圧器の更新を行い、社員の外部訓練会、研修会への派遣など障害や事故の防止に取り組み、鉄道事故0件を継続しています。

【損益の状況】

(単位：千円※税抜)

項目	2019年度 実績	2018年度 実績	前年度 増減	前年度比	2019年度 計画	計画増減	計画比
鉄道事業収入	535,752	282,538	253,214	189.6%	533,152	2,600	100.5%
関連事業収入	79,084	46,324	32,760	170.7%	66,197	12,887	119.5%
営業外収益	70,145	8,540	61,605	821.4%	17,000	53,145	412.6%
経常費用	1,088,462	720,190	368,272	151.1%	911,581	176,698	119.4%
経常利益	▲403,481	▲382,788	▲20,693	—	▲295,232	▲108,249	—
当期純利益	151,229	▲14,455	165,684	—	5,051	146,178	—

2 営業の概況及びその成果

(1) 鉄道事業営業概況

① 輸送実績

2019年度の乗車人員については、リアス線開業により定期が前年度比171.7%、定期外が前年度比155.0%となり、全体では前年度比164.0%の、908,645人となりました。

運輸収入についてはリアス線開業により、定期券収入が176.4%、一般個札が195.9%となったことなどにより、前年度比176.9%の464,469千円となりました。

【輸送実績】

○リアス線全体

(単位：人)

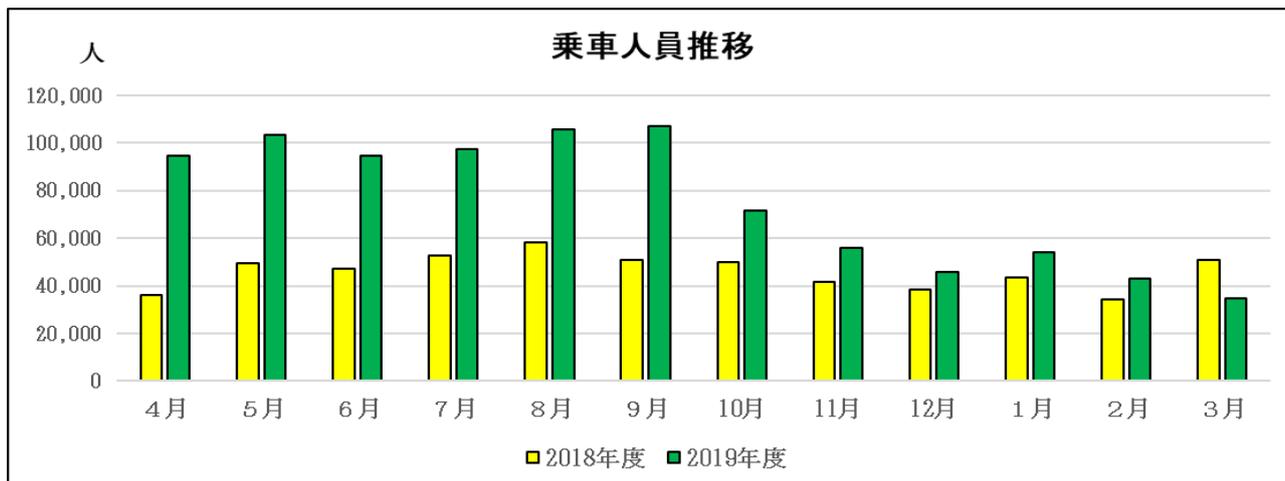
項目	2019年度	2018年度	増減	前年度比
乗車人員	908,645	554,085	354,560	164.0%
定期	512,622	298,561	214,061	171.7%
定期外	396,023	255,524	140,499	155.0%

○線別乗車人員※1

盛～釜石間	177,717	144,863	32,854	122.7%
釜石～宮古間	436,895	(※2) 22,445	414,450	1946.5%
宮古～久慈間	380,351	399,307	▲18,956	95.3%

※1 線別乗車人員は、各路線を跨る乗車の場合、それぞれ1人乗車とカウントしてあるためリアス線全体の合計とは一致しません。

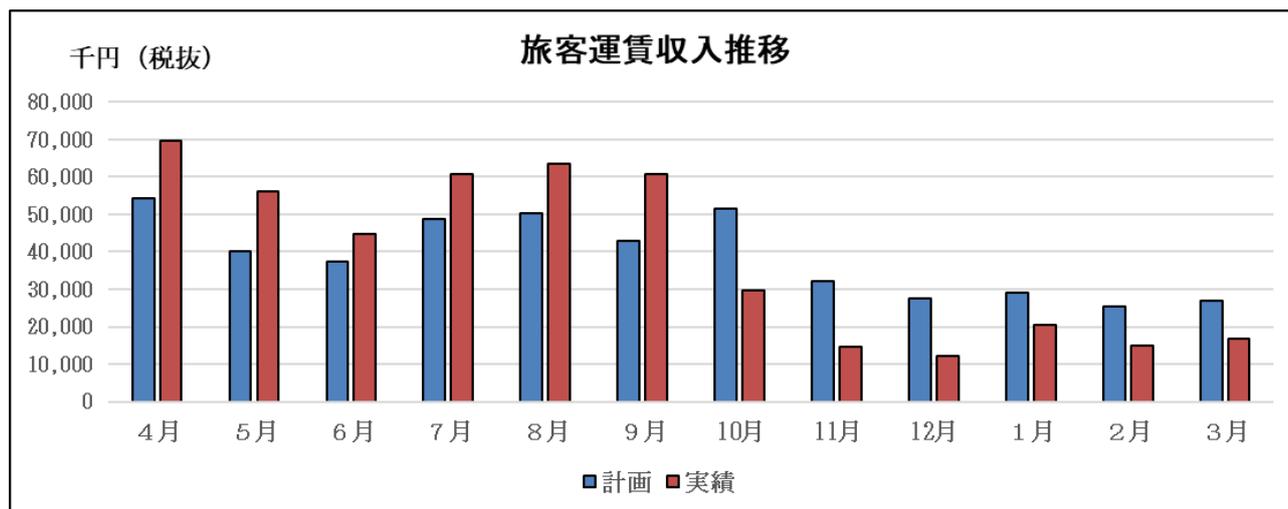
※2 2018年度のこの区間の運行期間は、3月24日から3月31日までの8日間。



○運輸収入

(単位：千円※税抜)

項目	2019年度	2018年度	増減	前年度比
運輸収入	464,469	262,611	201,858	176.9%
定期券	108,286	61,388	46,898	176.4%
一般個札	228,912	116,872	112,040	195.9%
観光個札	34,930	20,812	14,118	167.8%
一般団体	43,181	32,740	10,441	131.9%
観光団体	49,160	30,799	18,361	159.6%



② 運転状況

2019年度の定期列車については、盛～釜石間で22本、釜石～宮古間を同じく22本、岩手船越～宮古間で1本、田野畑～久慈間で2本、宮古～久慈間で24本を運転しました。

10月の令和元年東日本台風（台風第19号）以降は、復旧工事が完了次第、順次運行区間を延伸していき、2020年3月20日に全線での運行を再開しました。

[運転状況]

駅 間	盛～釜石	釜石～宮古	岩手船越～宮古	田野畑～久慈	宮古～久慈
列車本数	22本	22本	1本	2本*	24本

* 田野畑～久慈間は土休日運休

③ 運賃改定

2019年10月1日に消費税増税にともなう運賃改定を実施しました。

④ 観光列車及びイベント列車等

通常運転の列車に加え、観光列車及び地元団体や企業との共催によりイベント列車を随時運転しました。

なお2019年度は、三陸防災復興プロジェクト2019企画列車や宮古～陸中山田間で「プレミアムこたつ列車」を運転しました。

また、ヘッドマーク掲出やラッピングの実施等、他社と連携した企画も積極的に実施しました。

【主な観光列車】

洋風こたつ列車 盛～釜石間 (12月14日～1月26日)
プレミアムこたつ列車 宮古～陸中山田間 (2月2日～2月24日)

【主なイベント列車】

花見かき列車 (4月26日)、アサヒスーパードライ号 (7月5日～7日)
園児お絵かき列車 (6月～10月)、かいけつゾロリ列車 (8月～9月の土休日)
三陸防災復興プロジェクト 2019 企画列車 (6月～8月)
(三陸プレミアムランチ列車、三陸縦断夜行列車、復興の今学習列車)

【他鉄道会社との共同企画列車】

ぐるっと三陸周遊号 (9月14日・15日)
(IGRいわて銀河鉄道、青い森鉄道、東日本旅客鉄道盛岡支社と4社共同企画)
さんてつ銀河の星めぐり号 (2月15日・16日)
(IGRいわて銀河鉄道に車両貸出)

⑤ 新企画乗車券の発売等

- ・やまだ湯ったり日帰りきっぷを発売
- ・I W A T E A R E A P A S S を発売

⑥ 記念乗車券の発売

- ・平成から令和への祈念きっぷを発売

⑦ 企業等との連携

- ・企業ヘッドマーク及び車両ラッピングの実施
ヘッドマーク クラブツーリズム(株)、(株) 阪急交通社、ブラザー工業(株)等
車両ラッピング イオンリテール(株)、東北電力(株)、(株) ポケモン等

(2) 関連事業営業概況

① 旅行業

着地団体においては、被災地フロントライン研修をリニューアルし、オリジナル震災復興研修としてよりお客様のニーズに応える商品に切り替え、2018年度より参加者が増加しました。

また、募集型企画の「かいけつゾロリ」企画は好調を維持しているほか、地域の団体旅行や修学旅行の販売等も継続実施しました。

【主な旅行業の実績】

- ・着地団体：オリジナル震災復興研修 4件 509名参加 (前年度7件 111名)
- ・教育団体：中学校・高校修学旅行 7校 340名参加 (前年度6校 251名)
- ・一般団体：大型客船寄港OPツアー 4件 272名参加 (前年度4件 305名)
- ・募集团体：かいけつゾロリ列車企画 8回 258名参加 (前年度17回 694名)
- ・震災学習列車：160件 6,484名参加 (前年度202件 8,717名参加)
- ・三鉄沿線の旅：107件 286名利用

② 物産事業

ア 直営店「さんてつや」の営業

沿線市町村を中心とした特産品や当社オリジナルグッズを販売したほか、定期的の特設コーナーを設けるなど、販売促進に努めました（店舗での売上 34,166 千円）。

イ オリジナル商品の開発・販売

- ・リアス線開通記念商品の開発

「車両マフラータオル」「さんてつくぬいぐるみ」等、計 13 品

- ・三鉄ギフト（夏・冬）の販売

夏（6月～8月）[8,054 千円]・冬（11月～1月）[12,265 千円]

- ・地元企業とのコラボレーションによる三陸鉄道バレンタイン 2020 企画を実施

久慈市 沢菊

「久慈ありすのバレンタインショコラ」

釜石市 アンジェリック洋菓子店 「釜石まなのバレンタインショコラ」

ウ イベント外販

- ・客船寄港や沿線市町村産業まつり等にて実施（54 回開催）

エ ふるさと岩手応援寄附

- ・ふるさと納税制度を活用した、岩手県のふるさと岩手応援寄附による、三陸鉄道支援に対する返礼品等の発送を行いました。

寄付いただいた人数 335 人（うち三鉄オーナー 101 人）

取扱額 3,706 千円

(3) 安全安定輸送への取組

当社においては、安全、安心でかつ安定的な運転の確保に努めており、2019 年度も老朽化が進んだ施設・設備の更新、改修・維持補修を順次、実施しました。

なお、保安設備についても新增設が必要な個所への設置、規制区間等の見直しを行うとともに、社員を外部訓練会に参加させる等の教育訓練を行いました。

また、社内においては定期的に安全管理委員会を開催するとともに、安全総点検、社内監査などを実施しました。

① 安全対策事業

- ・鉄道安全輸送設備等整備事業

リアス線盛～釜石駅間 A T S 地上子更新新設工事

リアス線綾里～釜石駅間列車無線電源用変圧器更新工事

リアス線普代～堀内駅間通信ケーブル更新工事

リアス線第 5 普代架道橋外 5 改修工事

② 保安対策事業

- ・外部訓練への参加
- ・安全管理委員会の定例開催及び安全総点検、社内監査の実施
- ・異常時対応の実車訓練を実施（踏切事故対応）

(4) 支援の状況

当社は、厳しい財政状況から国、県、市町村等から必要な支援を受けており、今期においては、次のとおり支援を受けました。

・ 運営費補助（設備維持補助）	192,700 千円
・ 運営費補助（累積損失解消支援）	238,200 千円
・ 鉄道安全輸送設備等整備事業補助	224,618 千円
・ 三陸鉄道経営移管交付金	105,162 千円
・ 釜石駅維持管理運営費補助	2,000 千円
・ 鉄道新駅整備事業費補助	195,741 千円
・ 地域公共交通確保維持改善事業費補助	56,730 千円

3 令和元年東日本台風（台風第 19 号）からの運行再開の状況

- ・ 10 月 12 日（16 時）～10 月 13 日 全面運休
- ・ 10 月 14 日 ～ 盛～釜石 運行再開
- ・ 10 月 15 日 ～ 宮古～田老 //
- ・ 11 月 28 日 ～ 津軽石～宮古 //
- ・ 12 月 28 日 ～ 田老～田野畑 //
- ・ 1 月 16 日 ～ 陸中山田～津軽石 //
- ・ 2 月 1 日 ～ 田野畑～普代 //
- ・ 3 月 14 日 ～ 普代～久慈 //
- ・ 3 月 20 日 ～ 釜石～陸中山田 運行再開（全線運行再開）

4 対処すべき課題

2019 年 3 月にリアス線として新たなスタートを切り、それ以後、年度前半は多くの地元利用や観光利用で好調に推移していたなか、10 月の令和元年東日本台風（台風第 19 号）により全体の 7 割の区間で不通になるなど大きな被害を受け、年度後半は大幅に運輸収入が減少したことなどにより、第 39 期（2019 年度）は厳しい経営状況となりました。

さらに、沿線市町村においては、少子高齢化の進展による沿線人口の減少やモータリゼーションが進行している状況などから、沿線利用の促進はもとより、域外及び国外からの誘客により、全社を挙げた増収対策や経営改善など、あらゆる努力を行っていく必要があります。

具体的には、平成 31 年 1 月に認定を受けた「鉄道事業再構築実施計画」に則り、鉄道事業の経営改善施策として、「安全・快適な輸送サービスの確保」、「利用促進等による収入の確保」、「一貫運行による経営の改善等」に取り組み、安全性・利便性の向上や投資計画・経費構造の抜本的な見直し、組織体制の強化、人員の確保と適正な配置など経営資源の効率的な運用を進め、住民の利便性やニーズに配慮したダイヤの設定や定期運行、多くの皆様が楽しめるイベントや企画列車の実施など地域の方々に日々愛され、利用される鉄道にしていきます。

また、新型コロナウイルス感染の収束が見通せない中、外出自粛等が継続され、日常生活のみならず経済面においても大きな影響が出ています。当社でも、定期券の払戻しや団体等の予約のキャンセル、個人観光客の減少など、2020 年度の運賃収入が大幅に減少することが見込まれます。

このため、感染拡大の防止を図るため、乗務員等のマスクの着用や手洗いの励行に努めるとともに、きっぷ売り場や列車の運転席に飛沫感染対策の透明シートの設置や利用者に対する感染症対策の周知を図るとともに、感染収束後を見据え、沿線住民や域外からの誘客に向けた企画列車の検討や情報発信の強化等に取り組んで参ります。

5 設備投資の状況

当期に実施した設備投資の総額は 422,015 千円であり、その内容は次のとおりです。

○ 鉄道安全輸送設備等整備事業補助金	224,618 千円
(1) リアス線盛～釜石駅間 A T S 地上子更新新設工事	44,522 千円
(2) リアス線綾里～釜石駅間列車無線電源用変圧器更新工事	9,730 千円
(3) リアス線普代～堀内駅間通信ケーブル更新工事	123,586 千円
(4) リアス線第 5 普代架道橋外 5 改修工事	46,780 千円
○ 経営移管交付金	9,880 千円
(1) 避難誘導板・観光案内板設置工事	9,880 千円
○ 新駅整備事業	187,517 千円
(1) 新田老駅	187,517 千円

6 資金調達の状況

令和元年東日本台風（台風第 19 号）被害による、運輸収入の大幅な減少や代行バス輸送等により、経営が圧迫されることから岩手県より短期借入を行いました。

2019 年度借入額 100,000 千円（2020 年 3 月 25 日に返済）

7 直前 3 事業年度の財産及び損益の状況

区 分	2016 年度 (第 36 期)	2017 年度 (第 37 期)	2018 年度 (第 38 期)	2019 年度 (第 39 期)
営業収益	362,435 千円	351,755 千円	337,402 千円	684,982 千円
当期純利益	▲59,725 千円	▲30,573 千円	▲14,455 千円	151,229 千円
1 株当り当期純利益	▲1,990 円	▲1,019 円	▲472 円	4,942 円
総資産合計	720,146 千円	460,389 千円	1,887,785 千円	884,968 千円

8 当該事業年度の末日における主要な事業内容

- (1) 鉄道事業法による第 1 種鉄道事業及びこれに附帯関連する事業
- (2) 旅行業法による第 2 種旅行業
- (3) 物品販売業

9 当該事業年度の末日における主要な事業所等

本 社	宮古市栄町 4 番地
事業所	・ 事業本部 宮古市栄町 4 番地
	・ 運行本部 宮古市宮町 1 丁目 1-19
	・ 施設本部 宮古市宮町 1 丁目 1-50
	・ 旅客営業部 宮古市宮町 1 丁目 1-80
	宮古駅 宮古市宮町 1 丁目 1-80
	・ 大船渡派出所 大船渡市盛町馬場 4-4
	釜石駅 釜石市鈴子町 22-5
	盛駅 大船渡市盛町東町裏 16
	・ 久慈派出所 久慈市川崎町 10-20

※市町村等への業務委託駅：綾里駅・三陸駅・大槌駅・陸中山田駅（休業駅：田老駅）

岩泉小本駅・島越駅・田野畑駅・普代駅・陸中野田駅・久慈駅

10 従業員の状況

区 分	従 業 員 数	平 均 年 齢	平均勤続年数
男 子	79 名	44.9 才	19 年 6 ヶ月
女 子	5 名	27.0 才	2 年 2 ヶ月
計	84 名	43.8 才	18 年 5 ヶ月

※ このほか臨時雇用従業員 22 名、パート従業員 2 名、岩手県から 1 名、東日本旅客鉄道(株)から出向 21 名を受入れています。

なお、2020 年 3 月 31 日付けで 2 名が退職いたしました。

11 親会社等に関する事項について

当社は、岩手県及び岩手県内市町村から発行済み株式総数の 75.8% (23,200 株) の出資を受けています。

※ 岩手県 47.1% (14,400 株)、沿線市町村 22.2% (6,800 株)、沿線外市町村 6.5% (2,000 株)、岩手県知事が取締役会長に就任しています。

II 株式に関する事項

- 1 会社が発行する株式の総数 100,000 株
- 2 発行済株式の総数 30,600 株
- 3 当事業年度末の株主 46 名
- 4 主な株主の状況

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
岩 手 県	14,400 株	47.1%
宮 古 市	1,350 株	4.4%
(株) 岩 手 銀 行	1,200 株	3.9%
大 船 渡 市	1,150 株	3.8%
日 本 製 鉄 (株)	1,000 株	3.3%
東 北 電 力 (株)	1,000 株	3.3%
一 関 市	700 株	2.3%
久 慈 市	650 株	2.1%
釜 石 市	650 株	2.1%

Ⅲ 会社役員に関する事項

1 取締役及び監査役の状況

会社における地位	氏 名	他の法人等の代表状況等
取締役会長	達 増 拓 也	岩手県知事
取締役副会長	山 本 正 徳	宮古市長
取締役副会長	戸 田 公 明	大船渡市長
取締役副会長	遠 藤 譲 一	久慈市長
取締役副会長	野 田 武 則	釜石市長
代表取締役社長	中 村 一 郎	
取 締 役	平 野 公 三	大槌町長
取 締 役	佐 藤 信 逸	山田町長
取 締 役	中 居 健 一	岩泉町長
取 締 役	石 原 弘	田野畑村長
取 締 役	柁 屋 伸 夫	普代村長
取 締 役	小 田 祐 士	野田村長
取 締 役	岡 田 真 一	岩手開発鉄道(株) 代表取締役社長
取 締 役	大 井 誠 治	岩手県漁業協同組合連合会 代表理事会長
取 締 役	白 水 伸 英	岩手県政策地域部長
取 締 役	金 野 淳 一	
監 査 役	田 口 幸 雄	(株)岩手銀行 代表取締役頭取

2 取締役又は監査役ごとの報酬等の総額

取締役の報酬総額 5,040 千円

監査役の報酬はありません。

Ⅳ 決算期後に生じた会社の状況に関する重要な事実

該当する事項はありません。